

新刊ニュース

Peeters, Flor: Ivory Tower; 6 sacred songs(Marienlieder), op 74

Christmas hymns-Anthem: All my heart today rejoices

Edition Peters

昨年から Flor Peeters(1903-1986)のオルガンの楽譜を購入し始め、皆さんにも頻繁に利用いただいております(資料室だより 133 参照)。彼はカトリック教会音楽家の訓練を受け、グレゴリオ聖歌から多くの靈感を受けて作曲しています。オルガン曲に加え合唱曲も少し購入しておりますが、独唱曲(6つのマリア賛歌)とクリスマス用の小さなアンセムを購入しました。マリア賛歌集のほうは英語とフラマン語(彼のネイティブ言語)です。アンセムは英語の合唱です。オルガン曲と合わせてご利用ください。

Jacques Viret: Le Llibre Vermell de Montserrat

DIAPHONIA: Anthologie chorale du Moyen Age, volume 3

モンセラートの「朱い本」という名で知られる 14 世紀の宗教歌謡の写本がモンセラート修道院にあります。写本自体は神学論文、説教、マリアの奇跡譚などからなる 137 フォリオのミセラニー写本で、そのなかのわずか数フォリオが楽譜になっています。

今回購入したのはこの 10 曲の歌のファクシミリ・エディションと解説楽譜、および解説(フランス語)から成ります。中世の時代、巡礼地であるモンセラートでベネディクト会士が巡礼者の信仰教育のために編纂したもので、単旋律、2~3 声ポリフォニー、カノンが含まれます。ラテン語、カタロニア語、オック語、と 3 言語混じりあい、大変興味深い内容になっており中世音楽関係のコンサートでもしばしば好んでとりあげられます。「マリアの 7 つの御喜び」など民衆信心の歌も含まれ、準典礼音楽と位置づけられます。またこれらの歌は舞踏の指示があり、宗教舞踏の興味深い実例をみることができます。

(参照: 杉本ゆり著「モンセラートの朱い本についてーその本質と霊性ー」)

Antonio Chemotti: Polyphonic music pro mortuis in Italy(1550-1650)

Libreria Musicale Italiana

後期ルネサンス時代に出版された死者のための典礼の楽譜に関する研究書です。死者のための聖務も含めてレクイエムの研究をされる方には重要な文献かと思われます。

(杉本ゆり 記)